

軟腐病菌によるレタス茎内部の腐敗症状について

上原等・野田弘之・都崎芳久

9 月以前に早まきし,12 月までに収かくする作型のタスに,結球期頃から株全体が萎凋し,茎の内部が腐敗し,ついには空洞化する病害が発生する。病原細菌の噴霧接種では発病せず,茎への付傷接種で容易に発病した。病原細菌の形態および生理的性質を検討した結果は *Erwinia aroideae* (Tow) HOLLAND であり,本症状は軟腐病の特異な症状であることが判明した。防除法としてはストマイ剤(100ppm)を定植直後から数回散布すると有効であった。